

## これまでの経緯及び「中間とりまとめ」の位置づけ

### 1. これまでの経緯

#### (1) 検証作業を進めるに当たっての作業方針

基礎的な情報、周辺情報から収集・精査を行い、徐々に、核心部分へと踏み込む。

- ゼロベースでの検証とするため、これまで市教委などが実施した調査・検討の結果はもとより、さまざまな情報を基礎的なものも含めて収集・精査する。
- ご遺族の気持ちに寄り添った検証（「知りたい」という気持ちに応える検証）とするため、事実情報の収集・精査と並行して、多くのご遺族からご要望・ご意見を伺う。
- 事故当日の学校の状況に関する聴き取り（特に、児童への聴き取り）については、対象者の負担をできる限り軽減して、聴き取りがもたらす影響（二次的被害）を最小限に留めるため、既存情報の十分な精査、ケア体制の確保などを行った上で、慎重に実施する。

#### (2) これまで実施してきた主な作業等

- 作業チーム打合せ：調査委員を中心に、委員も極力参加（一部、Web会議を利用）して、計8回（大川小学校裏山の实地踏査を含む）開催。加えて、委員会用メーリングリストを介した電子メールによる作業確認・意見交換を頻繁に実施。
- 資料収集・整理：関係者、関係機関のご協力のもとに、下記の通り実施（7月6日現在）。

情報提供機関（主な内容）	資料等の件数
石巻市教育委員会（大川小学校事故関連記録、市・市教委及び同校における事前対策に関する情報など）	385件
宮城県教育委員会（学校防災対策、県内各校の対策状況など）	9件
文部科学省（国における学校防災対策など）	10件
その他、情報提供にご協力いただいている主な機関・個人等： 大川小学校事故ご遺族（児童ご遺族、教職員ご遺族）、元・大川小学校教職員、 仙台管区気象台、宮城県警察河北警察署、石巻市消防本部、石巻市河北総合支所、 東北大学災害科学国際研究所、東北大学大学院環境水理研究室、 など	

- 各種聴き取り：グループインタビュー形式で行ったものも含め、計32回（総時間数：約65時間）にわたり実施（7月6日現在）。対象者は以下のとおり。

聴き取り対象 <sup>*1)</sup>	延べ人数
児童・教職員ご遺族 <sup>*2)</sup>	39人
保護者・地域住民など当時の目撃証言者	22人
市教育委員会関係者・(元)教職員など	7人
その他、学識者・有識者等	4人
計	72人

<sup>\*1)</sup> 委員会における情報の取扱い規程に基づき、どなたに、いつ、どのような内容の聴き取りを行ったかという個別情報は公表しない。

<sup>\*2)</sup> 第2回委員会の資料報告(7名分)、席上発表(3名)、作業チーム打合せ(第3・7・8回)での聴き取りを含む。

## 2. 「中間とりまとめ」の位置づけ

- 今回の「中間とりまとめ」は、主に「事前対策」と「当日の避難行動」に関して、以下の事項（特に②を中心）にとりまとめたものとする。
  - ① これまでの調査の経過
  - ② 現時点で確認されている事実情報
  - ③ 今後の調査の方向性
- 現時点で確認された事実情報については、下記を除き、原則としてすべて記載する。
  - a) 不確実性が残り、現時点で「事実」と認定することが困難であるもの  
⇒ 今後、さらに情報収集・精査を行った上で「事実」を認定する
  - b) おおむね事実と認定できる状態にあるが、現時点で公表することにより、今後の調査（特に聴き取り）に影響するおそれがあるもの  
例) 当日、学校周辺にいた人々（地域住民等）の言動 など
- できるだけ専門用語などを用いず、どなたにでも読みやすく、わかりやすいものとする。
- 本日の会議では、調査委員を中心に作成した「中間とりまとめ（案）」をもとに検討する。今後、本日の討議結果をもとに修正して「中間とりまとめ」を確定し、公表する予定（下図参照）。

